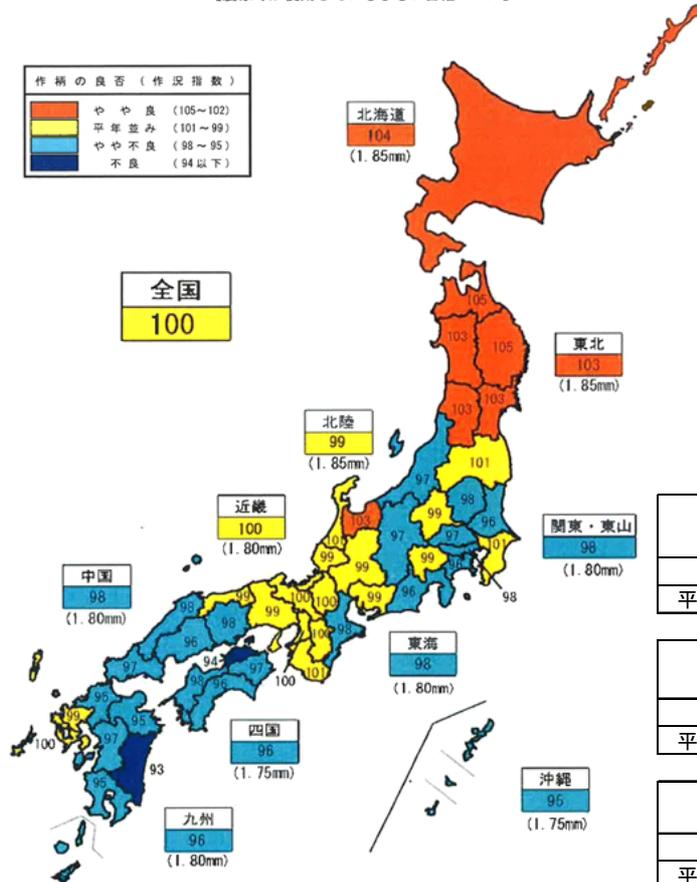


27年産全国作況100

～昨年より反収は5kg低下 前年産比較で43万8千トン減少

農水省は10月30日、10月15日現在の平成27年度産水稻の作付面積と予想収穫量を発表した。本紙461号（9月9日発刊）でも早期米における作況指数を述べたが、10月15日発表はほぼ作況が確定したといっても良い値となっている。長梅雨や8月中旬以降の日照不足、度重なる台風の被害により全国の作況が気になる所だったが作況指数は100と変わらない結果となった。ただし、昨年と比べると全国10a当たりの単位収量は5kgダウンの531kg、予想収穫量は798万8千トンとなり44万7千トンの減少が見込まれるとの発表となった。これは前年産比較で43万8千トンの減少という数字となっている。地域別に見ると別図の通り。前年と比べると近畿以西は若干のプラス、近畿以东は減収となっている。作況が100と変わらなかった理由は米どころ東北・北海道の作況が良かったためである。前号にも述べたが、米卸は掛かる状況を事前に収集して27年産米の引き合いが活発となっているようだ。今年は生産調整における作付面積目標の達成、飼料用米等の転換推進、作況が思ったほど良くない事からここきて米価が戻りつつある。生産者にとって生産物の安定化は歓迎すべきことで来年以降も作付計画がキチンと建てられることが第一で先に見える農業政策が望まれるところだ。

全国農業地域・都道府県別作況指数（10月15日現在）
 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



10a 当たり反収予想(10月15日現在)

地域	地域別平均反収(kg)	前年反収量差(kg)
北海道	559	△18
東北	579	△6
関東・東山	526	△18
北陸	531	△5
東海	494	△3
近畿	508	11
中国	505	3
四国	466	3
九州	484	2
沖縄	294	33
全国	531	△5

昨年比較での収穫量と作付面積

年産	作付面積(子実用)千ha	反収(kg/10a)
平成26年	1,573	536
平成27年(見込)	1,505	531

年産	収穫量(子実用)千トン	主食用作付面積千ha
平成26年	8,435	1,474
平成27年(見込)	7,988	1,406

年産	収穫量(主食用)千トン
平成26年	7,882
平成27年(見込)	7,444

トモエ肥連 拡販推進部会研修会 in 石川

去る11月10～11日、石川県加賀市にてトモエ肥連 全関東東海・千葉・埼玉地区主催の拡販推進部会研修会が開催され、組合員、エムシー・ファーターティコム、当社より総勢29名が参加があった。研修1日目は、福井県坂井市の(株)インスフィアファームの現地視察を行い、代表取締役社長の松井氏より概況を伺った。松井氏は学生時代に農学を学びながら大学3年生の時には既に起業。中小企業診断士の資格を持ち、経営コンサルタントも行っている。出身は福岡県で、農家出身では無い。新規就農者に対する行政からの助成が手厚い事から、就農先を福井県に決めたそうだ。今年で創業8年目になり、現在はハウス30棟、露地畑3haの農場でベビーリーフを主体に約200種の野菜を生産されている。ミシュランガイドで星の付く有名店を含む全国のレストラン約400件と直接取引し、農協、市場を經由していない。消費者・レストランが求めるニーズに合わせて様々な品種を栽培する事で、一般市場価格の3～5倍での取引を可能にしている。これだけの数のレストランのシェフの舌を唸らせるベビーリーフを安定的に生産するには、安定生産と味付肥としてトモエ化成が欠かせないとの事。新たな農業経営の形として、非常に勉強になった。



(株)インスフィアファーム/ベビーリーフ圃場視察研修

次に宿泊地に場所を移し、座学を行った。芝生管理の専門家による季節ごとの管理方法と注意点について、(株)フクムラ福村常務による芝生の肥培管理についてご説明頂いた。効果的な肥料として、肥実効(ノンコーティング、緩効性等)、バイオブミン(排水対策・根の伸長促進等)、サンソーネ(排水不良時の酸素供給等)、マグファイン(硫酸根の無いマグネシウム資材として有効)を説明頂いた。



研修1日目(座学) 福村会長挨拶

研修2日目は、石川県加賀市の白ネギ農家を視察研修。当地の地質は砂地の為、一般的な化成肥料では、肥料成分は流亡してしまい、作物が必要な養分を吸収できない。トモエ化成(必要成分の供給)、サンメイト(品質向上・中身の充実等)が最適との事。また、好硫黄野菜であるネギは、ソミックスの施用により香りが格段に良くなるとの事。最後に(株)フクムラ/福村会長が代表を務める「加賀営農研究会」の会員でもある石川県加賀市のブロッコリー農家を視察研修。安定生産可能な野菜を作る上で効果的な肥料として、肥実効を説明頂いた。各研修および懇親会では活発は意見交換がなされ、盛況の内に閉会した。

段々と朝晩は冷え込むようになり、紅葉も綺麗な季節になってきましたね。紅葉は最低気温が8℃以下(広葉樹)にならないと始まらず、さらに5℃以下になると一気に進むとされます。美しい紅葉の条件には「昼夜の気温の差が大きい」「平地より斜面」「空気が汚れていない」「適度な水分」など光合成が行いやすい条件が必要で、紅葉の名所に高原、溪谷、標高が高い湖沼・滝周辺が多いのは、この条件をよく満たすからだそうです。週末には紅葉狩りにお出かけしてみたいはいかがでしょうか？



編集事務局：南部、助川